

# 神中しーぶん

平成26年  
6月16日

神原中  
不定期10号

## 平和旬間実施中!!

「命、平和について考える～平和の心を世界へ～」

## 沖縄戦の犠牲者!!

沖縄戦は国内唯一の地上戦、軍人の戦死者を上回る一般住民戦没者があった。

「沖縄戦」の戦死者数は政府において未調査のため正確な数値は未だに不明ですが、沖縄県福祉・援護課の推定数では次のとおりとなっています。

本土出身兵	6万5908人
県出身軍人軍属	2万8228人
一般住民	約9万4000人
米軍	1万2520人
合計	20万0656人

上記戦没者には、強制連行などによる朝鮮人の軍夫(戦場の雑役夫)、朝鮮人「従軍慰安婦」の戦没者数(推定1万人を超える)は含まれていません。戦争マラリア死、餓死、住民虐殺、戦時遭難船舶、集団自決などを含めると一般住民の犠牲者は15万人前後になります。『平和の礎』には国籍を問わず24万人以上の死没者が刻名されている。



去る六月九日(月)より本校図書室を中心に、命・平和について考える平和旬間実施中です。そのねらいとしているのは、次の三点です。

- ① 沖縄戦について関心を持たせ、「慰霊の日」の意義を理解させる。
- ② 戦争と平和について関心を持たせ、「世界平和について考える姿勢を持たせる。」
- ③ かけがえのない命を大切にすることを育てる。



予定です。実際に予定されている取組内容としては、次のようなことである。

- ① 図書・パネル展
- ② 沖縄戦体験者の証言集展示
- ③ 「あなたの平和メッセージ」コーナー設置
- ④ 沖縄戦に関するQ&Aのワークシート記入
- ⑤ 平和に関する朗読CDの視聴

以上のような内容について、期間中の全学級の授業を活用し、取り組んでいる最中です。展示されている図書の一部、写真で紹介しているのは、「つるちゃん」、「これが沖縄戦だ」、「戦争遺跡」、「人間が人間でなくなる」とき、「語り伝える沖縄」の第一巻〜第五巻です。



## 授業参観日!!

去る13日(金)神中登校日と同時に授業参観日を実施致しました。見ると、43名の参観者が、全学年1名以上の保護者の方が多いです。5名の参加が少なかったクラスもあり、各学年の様子を、神中登校日で設定された授業は、グループで意見交換を深めてもらいました。音楽では、「自己紹介」を考案し、各個人を表現する工夫がなされました。家庭科では、色紙や写真を活用し、ワークシートを記入し展開しました。



## 戦争をなくす方法は?

そのほかにも太田昌秀氏や沖縄文化社、新人物往来社、沖縄県平和祈念資料館編などの著書や写真集等が数多く揃えられています。のぞいてみませんか?

今回、沖縄タイムス社より、「ワラビ」(沖縄戦を学ぼう特別版)が全生徒分提供されました。それも各学級で、平和教育の一貫として活用しています。その新聞のタイトルだけを見ても、戦争体験のない私にとって、いろいろと考えさせられます。

その記事の中で、富名腰朝輝さんは次のように話しています。

自分のことだけ考えてはいけません。戦争はいじめと一緒に平和を思う心、考えを育てていくことが大切だと思ふ。人の命が軽くなってしまう戦争は二度とあってはいけません。

## コラッ! 樹木倒れる

去る11日(月)体育館横の大きな樹木が二本倒れていました。前日からの大雨と強風が影響したものと推測されます。敷地内の体育館側に倒れたから良かったものの、道路側だったら大きな事故につながったかも知れません。保護者の方も心配して、直接学校の方へ来ていただきました。今後とも何か気がついたことがありましたら情報提供をお願い致します。立ち木も二本処理済み。



- ① 息殺す壕 8歳の記憶
- ② 「捕虜なら死」2ヶ月逃げる
- ③ 一家散り散り骨さえ拾えず
- ④ 住民巻き込んだ戦争
- ⑤ 奪われた学び・暮らし
- ⑥ 母が必死で守ってくれた
- ⑦ 傷にウジ虫もわいたの
- ⑧ 笑っていたあの日までは
- ⑨ 「みんなが大切」平和につながる
- ⑩ 沖縄戦 十五年戦争の果て
- ⑪ 無謀な戦線拡大 泥沼化
- ⑫ 対馬丸 戦の海に送られ沈没
- ⑬ 百五十キロ漂流 生死さまよう
- ⑭ 小さい子 次々餓死
- ⑮ 崖で生死さまよう
- ⑯ 逃げ場なくし白旗
- ⑰ 突然の爆弾 母直撃